

4.1. 葉月 けめこ氏（北九州市文化大使）

「まわりから言われる悪いイメージに引きずられることなく、
ポテンシャルを活かしてドラマティックにとがり続けてほしい。」



葉月 けめこ（はづき けめこ）

北九州市出身。

北九州市文化大使。脚本家。1999年より雑誌ライター及び作詞家として活動。テレビ・ラジオ番組の構成作家を経て2016年に脚本家デビュー。主な作品としてNHK福岡「You May Dream」（東京ドラマアワード2018ローカルドラマ賞）、劇団青春座「若戸大橋物語」など多数。著書「北九州の逆襲」ほか。

「ドラマティックな歴史」

到津遊園の閉園反対運動の時にも感じたことですが、人々の団結力がすごいと思っています。まちは人の集合体であるので、人々の気質がまちに現れてきます。合併している歴史もあり地域によって特色も気質も違いますが、何かがあれば一致団結し、声を上げる強さがあります。

炭鉱があった時代には大勢の人が流れてきていたので、多様な人を受け入れる柔軟性もあるのではないのでしょうか。

人を助けたり応援するパワーがあるまちともいえます。北九州マラソンについて、知り合いで各地のマラソン大会に出ている人が「北九州市は沿道の応援が違う！」と言っていました。“やる気が出る応援”をしてくれるそうです。自分と直接関係のない人が走っているのに応援をしてくれるのは、すごいことではないのでしょうか。

ノリの良さ、という特徴もあります。テレビ取材などで街頭インタビューの際もサービス精神が旺盛で、カッコつけることなく受けてくれる。協力しよう、役に立ちたい、盛り上げたいという精神があるのだと思います。

そういったDNAが今後も続いてくれると良

いですね。最近、多様性を受け入れることの重要性がよく言われていますが、北九州市はその意味で最先端を行っていると思います。

「良くも悪くも、ノリが良い」

災害が少ない・物価が安い・子育てしやすいまちです。悪いイメージが先行してしまっているのですが、それはノリのよさ、サービス精神に起因しているのではないのでしょうか。ノットの方が面白い！といったような感じでしょうか。例えば、「北九州市ではコンビニに手りゅう弾が売っているの？」と言われた時も「170円で売っているよ！」とついノってしまう。マスコミも「修羅の国」といった記事を書いた方が閲覧数が伸びる。そこにそろそろ抗ってみても良いのではないのでしょうか。成人式で突飛な格好している若者も、普段真面目に働いていて、そのことを皆分かっているのですが、面白がってネタにしてしまうし、悪い噂の方が広まるのが早い。「そんなにあぶくないよ！」というイメージをつくることも重要です。折角良いものづくりや伝統があるので、そのことを知ってもらった方が良いと思います。

「絵になる場所が多い」

北九州市には絵になる場所も多いです。たくさんロケも来てもらえるし、それを嫌と言わない市民性がある。作る側からしたらありがたいことで、例えば爆破シーンが街中で撮れる場所は北九州市くらいしかなく、かなりロケ地として優位性があると思います。風景としてのポテンシャルも高いです。

地元の人にしても、普通にしゃべっている親戚のおじさんおばさんが素で面白い。癖が強いとか、サービス精神があるとか主人公にしたくなるようなキャラクターをお持ちの方が多いです。

以前、角打ちを舞台にしたラジオドラマの脚本を書いたことがあるのですが、取材で角打ちに行った際に局の担当者が「角打ちで交わされる会話がそのままドラマになる」と言っていました。カッコつけないところが面白いのかもしれないですね。

「北九州市でないと叶わないことを」

20年先は全然違う社会になっているでしょう。私の考えですが、子育てしやすいまちというのは定着してきたと思います。

北九州市は高齢化のスピードも早いので、その点に関しても整備が進んでいると思います。私の両親も病院に行っていますが、高齢者が住みやすい、ケア的な部分が充実しているのではないかと思います。高齢化社会が進んでいるので、北九州市にはリードしていただいて、民間の力を取り入れながら住みやすいまちづくりを進めてもらい、日本のモデルケースになっていただきたいです。

一方、豊かさに対する考え方も変化してきています。人々の価値観やライフスタイルが変わる中で、仕事や文化はもちろん、芸術やスポーツに親しめるなど、多様な選択をするような社会になってくるのではないのでしょうか。ミニワールドスタジアムは海外選手も褒めちぎる

スタジアムです。北九州芸術劇場も演者側がやりやすい、良い劇場とされています。松本清張記念館もですが、既にあるものを磨きながら、心のゆとりがないとできないこと、北九州市でないと叶わないことをやっていく必要があります。もっと宣伝して良いし、施設同士が連携して、ここに来れば一週間遊べる、といった企画を立てるようなことをやっても良いかもしれません。

成人式の衣装を市公認にするのも良いアイデアです。市が悪いイメージで言われることに慣れて、引け腰になってしまっていると思います。マスコミにも操作されるのではなく、情報を市側で上手くコントロールしていかないといけないのではないのでしょうか。

20年後は想像するよりもっと技術が進んで、AIがいろんなことをやっていると思いますが、人のあたたかさがもっと求められる世の中になっていくかもしれない。

新しいことを発見してやっていく力が、色々なものの発祥のまちでもあります。

「純度の高いまち」

オシャレタウンは似合わないと思います。東京みたいなこと、優等生的な立ち位置は福岡市に任せて、北九州市が好きな人に来てもらえたら良いと思います。福岡市と競争するのではなく、別のスタンスであるべきではないでしょうか。東京化するのではなく“まちの純度”が高いまま、それを保ってほしいです。

4.2. 林 良祐氏 (TOTO 株式会社 取締役専務執行役員)

「イメージを払拭し、次世代の方が安心して住むことができるまちに」



「これまでのイメージの払拭を」

「ものづくりのまち」である北九州市において、当社は本社を「パイロットプラント」として位置づけています。最先端の製品をこの地で開発し、商品化する、そして生産は全世界で、という構造です。これまでの「ものづくりのまち」というイメージとは少し異なります。今後は、これまでのイメージを払拭して、単なる製品の生産というものづくりの時代は終わったのだ、ということをアピールしていくことが重要ではないでしょうか。

「誰もが働ける、安全安心なまちづくり」

北九州市には、障がいのある方が多く働く、市も出資する当社のグループ会社「サンアクアTOTO」があります。設立当初は、単に身体障がいのある方が働ける場所としてスタートしましたが、今では精神障がい、知的障がいのある方も働ける場になっています。安全に会社に来て、安全に帰って、また次の日へのモチベーションをもって会社に来るということは、実は非常に難しいことです。一緒に働いている健常者にも知識と理解が必要になります。加えて、地域の理解や家庭、病院等とのつなりなどの体制が構築できていないと会社は成り立ちません。

その中で、同社では「自動化」ではなく、「多能工化」を進め、雇用を維持するとともに、誰

林 良祐 (はやし りょうすけ)

1987年に給湯機開発部門に入社。その後、茅ヶ崎の研究所を経て、次世代トイレ「ネオレスト」の開発に成功。米国における節水トイレを開発後、日本において、瞬間式次世代ウォシュレット「アプリコット」の開発に成功し、長く最先端のトイレ開発に従事。

2011年に執行役員ウォシュレット生産本部本部長、2020年に現職である取締役専務執行役員に就任。

もが代打ができる状況をつくっています。働いている方は、毎日来ることができない場合や遅れて来る場合もあるため、このような工夫が必要となります。

サンアクアTOTOを経営する中で、工場内のみならず、地域全体での交通インフラ、情報網、絆を構築することの重要性を認識し、これが安全、安心のまちにつながることを身をもって感じています。つまりは、工場におけるものづくりだけでなく、地域創生にもつながるわけです。このような取組や視点を北九州市にも大事にしていきたいと思えます。

「他に無いシチュエーションを上手く活用」

社業とは視点を異にしますが、北九州市には素晴らしいゴルフ場があります。また、交通アクセスが良く、美味しい料理もあってというシチュエーションは他にはなかなかありません。世界からVIPに来てもらい、お金を落としてもらうために、ホテルのスイートルームの増設や門司港と旧松本邸のディナーコースのツアーを組むなどでアピールしてはどうでしょうか。

また、小倉城など名所旧跡もあります。今後、インバウンドにも人気が出てくるはずで、今は福岡市に流れているアジアを中心とした海外からの旅行者も多く来てくれるのではないのでしょうか。

コンパクトにまとまっていることが北九州市の大きな魅力だと思います。加えて、足立山、皿倉山、響灘などの自然も上手く活用した方が良いと考えます。

「市とともにグリーンエネルギーの拡大を」

最近、衛生陶器工場の70年使ったレンガ窯を閉じました。かつては荒天の際、災害を防ぐため、窯の火を落としていましたが、窯の温度が100度以下まで下がるには24時間かかっていました。それが新しいステンレス窯に代わり、コントロールしやすくなるとともに、作業員が土日にも休めるようになりました。

エネルギー源も重油からLNGに代わり、生産性が向上しましたが、今後のさらに環境負荷軽減に向けた熱源研究を既に始めています。グリーンエネルギーについては、そのつくり方、使い方が今後の大きな課題でしょう。100%を実現するには世界的にも莫大なエネルギーとコストが必要となります。その点をどのようにアピールしながら取り組んでいくかが課題と考えています。この取組については、ぜひ行政と一緒にやっていきたいと考えています。

また、当社の商品を設置いただくことで、衛生的で安全・安心、かつ節水につながると考えています。当社は上水と下水を安全につなぐことができる会社であり、世界におけるクリーンなエネルギーでサステナブルな商品の展開を目指していきたいと考えています。

「『変わること』と『続けること』を『やり遂げる』」

やはり北九州市は、「変わること」と「続けること」を「やり遂げる」ことが大切なのではないでしょうか。時代の変化に合わせ、柔軟に「変わること」はもちろん、先述したように、障がいのある方が安全に仕事に行き、帰れるまちというのは素晴らしいことです。これを続け、やり遂げることが大事です。

「稼げるまち」という意味では、当社の最先

端のトイレやウォシュレットはこの北九州市の地で開発されています。また、TOTOでは衛生陶器のようなオールセラミックに加え、半導体関連部材であるアドバンスセラミックの両方を製造しています。その過程では、他都市の工場などとも連携し、人も入れ替えながら進めています。また、リモートでのやり取りも増えてきたことで、移動時間が少なくなり、世界との交流も容易なっています。このように世の中の動きは速くなっています。

北九州市はコンパクトなまちですので、このスピード感を捉えることができれば、新ビジョンの3つの歯車はきっと上手く回るのではないのでしょうか。

「トイレを通じて次世代が安心して住めるまちづくり」

渋谷区では公共トイレを再整備しましたが、各々建築が異なり、多機能で、例えば、導入した液晶に76億8千万通りの表示ができるものなど、そのあり方が変わってきています。

北九州市でもこのようなことができればと考えています。安全安心で集える公園には良い公共トイレが必要です。

トイレを例にしましたが、次世代の皆さんが安心して住めるまちづくり、他から羨ましいと言われるまちづくりが理想でしょう。

「聖地として集まるまち」

世界各国のTOTOの工場で働く技術者が集まり、技を競うコンテストも北九州市で開催され、聖地として世界から人が集います。

ベトナムをはじめとする海外各地の激戦を勝ち抜いてきた技術者は、東京よりも北九州市に来たいという憧れを持っています。その折を利用して、コロナ禍前は年度末の社長表彰時に小倉城等に連れていくツアーを組み、北九州ファンづくりを行っていました。

北九州市に魅力的な資源がたくさんあります。ぜひ生かしていただきたいと思います。

4.3. 古長 由里子（日本 IBM デジタルサービス株式会社 九州 DX センター長）

「豊富なコンテンツを紡ぎ、レジリエンスがある持続可能なまちになって欲しい」



古長 由里子（ふるなが ゆりこ）

北九州市出身。

日本 IBM でクラウドや AI のビジネス開発やマーケティングを歴任後「IBM Future Design Lab.」を設立。課題解決者との交流を軸に、テクノロジーと信頼でより良い未来を拓く共創活動を推進。2023 年 2 月より、IBM 九州 DX センター長に着任し、再び北九州市へ。産官学連携での DX/GX 推進や人財育成にも注力。全国地域 DX センターのブランディングを担当。

「レガシーを残しストーリーとして伝える」

北九州市といえば、ものづくりの歴史が挙げられます。日本の近代化に貢献した施設や五市対等合併のプロセスなども良いレガシー（遺産）であるため残すべきではないでしょうか。

そこでは、歴史ある施設などをうまく残すことも必要でしょう。若松南海岸通りの古い建物は素材や建築方法が「豊かな良い時代」のもので、技術の結集でもあります。メリハリをつけて良いものを残して多くの人に見てもらうことが重要です。

一方で、「北九州市」として語られるストーリーが少なく、「門司」「若松」といった個別エリアのものが多いと感じます。しっかりと市全体の価値を多角的に捉えてストーリーとして伝えることが必要です。

人の特徴は、温かみや親切さが挙げられるでしょう。面倒見がよく、放っておかない気質、人と人との距離が近く、意識しての受容ではなく、多様であることを当たり前だと思っていると感じます。一度、北九州市を出て、再び戻ってきて改めてそれを感じているところです。

「多様なコンテンツを体験価値に」

「北九州にはポテンシャルがある」を「北九州市には素晴らしい多様なコンテンツがある」と言い換えたいですね。自然については、平尾

台もそうですし、工場夜景や若松の岩屋の夕日は市外から来た人に見せるととても喜んでもらえます。もっと市民一人ひとりが自信を持って情報発信すると良いと思います。

また、インフラも充実しています。医療、歴史もありますし、プラス要素として芸能・スポーツ・アニメといったソフト面のコンテンツもあります。大学、教育機関も多く、素晴らしい人財を有していますよね。

しかし、これらのコンテンツや人財をコトづくり（体験価値）にできていないように感じます。また、それらが体系的にデザインされず、点在するに留まっている印象です。ここでも、顧客向けの発信方法が不十分だと感じます。ペルソナ（典型的なユーザー像）を考えて、「個人に対してどのような体験を線や面で伝え、感動してもらうか」という視点が必要でしょう。

「技術企業のエコシステムにも期待」

当社が北九州市に拠点を置いたのは、専門人材が豊富な点を評価したからです。また、投資先としてのパフォーマンスが良いと思います。家賃にしても、採用コストにしても、まちの中の移動効率についても感じています。加えて、産官学の距離感が近いのも大きな魅力です。

特に当社の DX センターにおいて、市内に蓄積されたものづくり産業の技術的な企業のエ

コシステムは、魅力的なコンテンツだと思います。当社の先端技術との親和性があり、それを活かすフィールドがあるということです。

「レジリエンスがあるまちへ」

15年後の日本は予想不可能です。誰も思っていないようなまちになれば良いですね。いくつかキーワードがありますが、その一つは「レジリエンス」です。姿かたちを適応させていきつつ、しなやかで伸びしろがあることを意味し、フレキシビリティ（柔軟性）とは違います。耐性があり、常に変わっていくような「レジリエンス」があるまちを目指すべきだと考えます。安全に暮らせる、ウェルビーイングを包含している、「レジリエンス」がある、そのようなまちになることを期待しています。

最近、多拠点で生活するスタイルが注目を集めています。北九州は交通アクセスも良いし、多様な生き方を受容する風土があります。働き方の選択肢も増えている今、ワーク・ライフ バランスがとりやすい北九州が 2 拠点目の住まい候補地となるといいですね。

開かれた港町としてのレガシーやノウハウを誰も想像し得ない 15 年先に向かって、変化を楽しむ、自ら変わっていくということをやることによって、ものづくりのノウハウや人材が活かされることになるのではないのでしょうか。

そして、儲かるコトづくりとして、例えば環境先進都市としての技術コンテンツを使うということがあり得ると思います。

「豊富な人材が集う仕組みづくりを」

「豊富な人材を持つ」「世界を相手にする」という 2 点を柱にすると良いと思います。労働力ではなく、高度専門家としての外国人材を招聘してはどうでしょうか。また、多様性のあるまちとして、外国人だけでなく、女性や障害をお持ちの方も含めてのインクルージョン(包摂)は重要です。

海外からの移住者の受け入れも必要でしょ

う。北九州市には英語を話せるビジネスパーソンが多いと感じています。北九州発のグローバル企業もあり、海外転勤もあるはずですが、それとは逆に北九州市が目指している環境・エネルギー・物流について、それを補うために世界中から優秀な頭脳を集めてくる発想もありえるのではないのでしょうか。

しかし、市内大学に留学生は多数いますが、北九州市内への就職者は少数です。今後は、大学を人財育成拠点としてより機能させる方法もありますし、関係人口として、一度北九州市から離れた後も「先生」として呼び戻せるような関係をつくれると良いと思います。

「レジリエンスある持続可能なまちを」

ヨーロッパでは、コペンハーゲンもバルセロナなど多くの都市で、都心に車を減らして、自転車や歩行者が優先されるまちづくりを進めています。公園も整備され、中央分離帯のようなどころにおしゃれなカフェが出店しています。小倉の紫川周辺などでもこういったまちづくりが向いているように感じます。また、美食の街として有名なスペインのバスク地方では、ピンチョス(つまんで食べる軽食)を楽しみながら複数のバル巡りをしたり、有名なシェフの料理を目当てに海沿いのオーベルジュを訪れたり「食」を中心とした観光が根付いています。このようなことは北九州でも実現可能で、海外からの観光客をおもてなしできるのではないのでしょうか。

先述した歴史や自然、食文化、などの観光コンテンツを活用し、少し視点を変えてコンセプトを練り直し、キュレーション(情報編集・価値創出)していくと良いと思います。

「レジリエンス」はキーワードになります。持続可能ではあるけれども、ずっと一定の状態をキープするのではなく、形を変えながらしなやかに進んでいく、それに追加して「インクルージョン」があり、お互いに尊重し合うということができれば良いのではないのでしょうか。